

# 千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1 - 1  
公益社団法人千葉県園芸協会  
連絡先 043 (223) 3005  
発行日 毎月 1 日  
平成 30 年 10 月号

## 産地の課題や振興ビジョン等を踏まえた 野菜振興の取組について

生産振興課 園芸振興室

本県の野菜振興を効果的に推進するためには、県の振興計画の推進に加え、各産地の課題や振興ビジョン等を踏まえることが重要です。そこで県では、関係機関と連携し、県内の野菜産地と情報交換を重ねてきたところです。今後も、こうした情報交換を継続するとともに、現場の声を踏まえた施策を積極的に展開してまいります。

### 1 本県野菜の情勢と振興計画

本県は、温暖な気候や恵まれた立地条件、生産者の高い技術意欲に支えられ、全国屈指の農業県となっています。特に野菜については、農業産出額の約 4 割を占めるなど重要な部門であり、平成 28 年産の野菜産出額は 1,927 億円と、前年から 150 億円以上増加しています。しかし、全国順位については、平成 25 年産以降、北海道、茨城県に次ぐ全国第 3 位となっています。

こうした状況を打破し、生産力を更に強化するためには、地域の基盤となる『産地』と、生産を行う『担い手』の両輪を強化していく必要があります。県では、平成 29 年度に策定した『千葉県農林水産業振興計画』において、産地については『需要の変化に柔軟に対応できる産地の育成』を、担い手については、『高収益型園芸農業の推進』を掲げ、実現に向けて各種施策を展開しているところです。

### 2 産地との情報交換会

こうした取組の効果的な推進には、産地の課題や振興ビジョン等を把握・総括した上で、補助事業等の施策を展開することが重要です。そこで園芸振興室では、千葉県園芸協会や全農千葉県本部、農業事務所等の関係機関とともに県内の農協を訪問し、各産地の振興方針や直面する課題、県への要望等の把握を目的とした情報交換会を実施してきました。

その結果、施設野菜であるトマトやきゅうりについては、担い手の生産力強化に向けて「炭酸ガス施用技術等を活用した生産性向上」に大きなニーズがあることが分かりました。また、露地野菜やさつまいもについては、省力化による担い手の規模拡大に加え、新産地の創出や大規模集出荷貯蔵施設の整備による産地強

化にも大きなニーズがあることが分かりました。

そこで、これらの結果を踏まえ、補助事業の導入支援を積極的に行うとともに、県単事業の拡充や新規メニューの創出に着手し、「輝け！ちばの園芸」次世代産地整備支援事業については予算額を昨年度から拡充するとともに、施設園芸の生産性向上を目的として、『施設園芸スマート農業推進型』のメニューを新設したところです。

県では、今年度についても同様の取組を進めているところであり、こうした産地との情報交換会を通じて現場の課題やニーズを汲み取ることによって、新たな支援措置の事業化や関係機関との連携など、効果的な施策の推進を図ってまいります。

### 【次世代に向けた産地の目指す姿】

#### 【集出荷貯蔵施設や選果場の役割】

- ・農家の調整、出荷労力の軽減
- ・出荷品質の均一化やロットの拡大
- ・産地振興の拠点として情報交換や合意形成の場



- ・施設の新設、高機能化
- ・施設の統合、一本化
- ・利用者の拡大

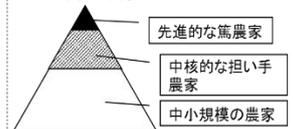
- ・県単事業(輝け！)
- ・国庫事業(強農・産地パワーアップ)
- ・その他事業(新規含む)



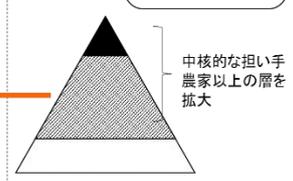
産地の規模拡大・施設の利用増加・ロットの拡大  
(生産・販売力の強化)

#### 【産地の構成員である農家】

- ・先進的な農家である篤農家
- ・産地を牽引する中核的な担い手農家
- ・中小規模の農家

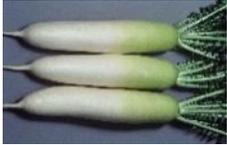


- ・省力化機械の導入
- ・園芸用施設の新設
- ・ICT技術などの活用による反収の向上
- ・法人化による規模拡大



モデル的な農家の育成による  
出荷量の増加・経営の改善

野菜ニュース



### 3月どりトンネルダイコンの優良品種

農林総合研究センター 水稻・畑地園芸研究所  
東総野菜研究室 研究員 千吉良 敦史

3月どりトンネルダイコンの千葉県野菜品種審査会において、根部の揃いが良く、障害の発生が少ない「SC3-295」など5品種が優良品種に選定されました。

#### 1 はじめに

11月に播種し、3月に収穫するトンネル春どりダイコンは、千葉県の市場占有率が高く、安定した価格が期待できる作型ですが、厳寒期にダイコンが肥大するため、肥大不足や抽根部が細くなる肩こけが発生しやすくなります。そこで、肩こけなどの障害が少ない、この作型に適した優良品種を選定するため、第64回千葉県野菜品種審査会が平成29年3月7日に開催されましたので、結果を紹介します。

#### 2 栽培概要

審査会には19品種が出品され、栽培は平成28年度に当研究室(旭市)の黒ボク土露地ほ場で行いました。施肥は全量基肥とし、10月27日に化成肥料で窒素、リン酸、加里をそれぞれ10a当たり成分量で10kg施用しました。畝幅150cm、通路幅100cm、1畝4条、株間23cmとし、210cm幅のマルチを使用し、11月4日に播種しました。播種と同時に、幅270cm、厚さ0.1mmの農ビフィルムによりトンネル被覆を行いました。11月21日から開口部の高さを10cm、12月21日から15cm、2月16日から南西側のみ20cmとし、トンネルすそ換気を行い、3月6日にトンネルを除去しました。3月7日に、立毛審査と、1区につき12株を収穫して、収穫物審査を行いました。栽培中の気象条件は概ね平年並みであり、寒さの影響により、全体的に肩こけ、一部の品種で葉の黄変及び短根の発生が見られました。

#### 3 審査の結果と生育及び外観品質

26名の審査員により審査が行われた結果、出品された19品種のうち、得点の高い上位5品種が入賞しました(表)。1位の「SC3-295」(写真)は、根重が重く、形

状が揃い、肩こけの発生が8%と最も少なくなりました。一方で、葉部の生育が旺盛なので、換気を強めにする必要があります。2位の「MKS-R134LB」は、首の着色は濃く、最も根重が重く、根径が太く、根長が長く、尻の形状が流れるタイプです。3位の「SC1-603」は、肌つやが良いものの、洗浄時に割れる洗割が17%でやや多くなりました。4位の「SC3-643」は、肌つやが良く、根径の揃いも良いものの、尻が詰まるタイプのため根長が32cmでやや短くなりました。5位の「春宴」は、首の着色が濃く、形状の揃いが良いものの、肩こけが29%と多くなりました。

#### 4 おわりに

以上のように、生育及び外観品質が良好な5品種が入賞となりました。収量性や根形等の各品種の特長を勘案し、各産地に適した品種を選択することで、生産性と産地の評価が向上することが期待されます。



写真「SC3-295」

表 入賞品種の収穫時の生育、障害発生率及び収量

順位	品種名	出品社名	生育				障害発生率(%)			収量(t/10a)	
			葉重(g/株)	根重(g/株)	根径(cm)	根長(cm)	肩こけ	洗割	他	合計	上物
1	SC3-295	(株)サカタのタネ	346	1,443	8.2	37	8	0	4	10.0	8.6
2	MKS-R134LB	みかど協和(株)	252	1,495	8.4	39	21	8	0	10.4	7.4
3	SC1-603	(株)サカタのタネ	265	1,285	8.1	35	21	17	4	8.9	5.6
4	SC3-643	(株)サカタのタネ	227	1,147	7.6	32	25	0	0	8.0	5.9
5	春宴	雪印種苗(株)	245	1,219	7.9	34	29	0	8	8.5	5.5

注1) 各区12株の2反復を3月8日に調査した

2) 肩こけとは肩部(抽根部上部)の太さが中心部の7割以下になること

3) 洗割とはダイコンの収穫、洗浄及び調製作業中に割れること

花植木ニュース



# 幕張新都心地区における花壇づくり コンテストについて

千葉県農林水産部生産振興課  
(千葉県花き振興地域協議会)

生産、流通、小売、行政、文化関係 7 団体で構成される、千葉県花き振興地域協議会では、2020 年東京オリンピック・パラリンピックで国内外の多くの方が訪れることが予想される幕張新都心地区において、花によるおもてなしと需要拡大につなげるため、地区内企業・団体と連携して県産花きを使った花壇づくりコンテストを実施しました。

## 1 背景

平成 26 年に「花きの振興に関する法律」が施行され、国産花きの生産・供給体制の強化、輸出や需要拡大の取組を推進するため、「国産花きイノベーション推進事業」がスタートしました。千葉県花き振興地域協議会では、この事業を活用して県産花植木の需要拡大を図るため、小学校等における花育体験や成田空港など公共の場での植木、生け花の展示、季節の県産花きを使用したディスプレイ、植木造形技術の実演会など花植木文化の普及に積極的に取り組んでいます。

## 2 開催内容

- ・ 展示期間：平成 30 年 7 月中旬～9 月 4 日（火）
- ・ 場所：千葉市幕張新都心地区
- ・ 主催：千葉県花き振興地域協議会
- ・ 後援：千葉市
- ・ 参加団体：幕張新都心まちづくり協議会の会員団体等（企業やホテル、地元商店街、コミュニティ施設）9 団体
- ・ 概要：参加団体等の施設エントランス付近などに参加団体がデザインし、県内花き生産者が生産した花苗を使って花壇を作り、その維持管理の状況、できばえなどを競いました。

## 3 審査結果

- ・ 審査日：平成 30 年 8 月 29 日（水）
- ・ 審査員：幕張新都心まちづくり協議会、千葉県花き園芸組合連合会、(一社)千葉市園芸協会、株式会社第一花き、県関係者



審査の様子

## 【結果】

参加団体名	賞名
三井アウトレットパーク幕張	最優秀賞・コンセプト賞
幕張テクノガーデン	優秀賞・デザイン賞
ホテル ザ・マンハッタン	奨励賞・コンセプト賞
セイコーインスツル株式会社	奨励賞・景観賞
千葉市幕張勤労市民プラザ	奨励賞・コミュニケーション賞
ホテルグリーンタワー幕張	奨励賞・管理向上賞
株式会社幕張メッセ	奨励賞・アイデア賞
ホテルニューオータニ幕張	奨励賞
幕張ベイタウン商店街振興組合	奨励賞

最優秀賞は、「花火」をイメージし、多彩な花をバランスよく配置し、植物の特性を活かした行き届いた管理が評価された三井アウトレットパーク幕張の花壇が受賞しました。



最優秀賞 三井アウトレットパーク幕張の花壇

## 4 今後の取組

3 回目の開催となり、参加団体の管理技術が年々向上しています。今回の猛暑の中での結果を考慮し、今後は、夏場に強い品目をさらに絞り込み、真夏でも管理がしやすく、長期間、花を観賞できる品目品種を選抜し県産花植木の需要拡大を目指します。

流通情報



## 秋冬にんじん規格統一に向けた取組について

全国農業協同組合連合会千葉県本部  
園芸部 園芸推進課 大杉 真一

「オール千葉」体制の取組を進める中で、にんじんについては主要産地を集めた協議会等を通じて、合同消費宣伝などに取り組んで参りました。今後も産地、市場、行政と連携しながら千葉県産にんじんの販売・生産強化を推進します。

### 1 現状

千葉県産は春夏にんじん(5月～7月)と秋冬にんじん(11月～3月)の作型です。産出額では全国2位(157億円)、また東京都中央卸市場入荷量のシェアは35%(32,528t)となっています。特に6月と12月～1月では同市場シェアの8割を占めるなど、北海道に次ぐにんじんの大産地です。本県産秋冬にんじんはM級規格を中心にバラ、袋など多様な規格をそろえることで、消費者のニーズにきめ細かく対応し、競合する産地に対して優位性を確立してきました。

一方で本県産と10月～11月に競合する北海道産は、温暖化や生産者の作付意向の高まりによる作付面積の増加や相次ぐ大型選果場の設置で、出荷期間が長期化する傾向にあります。また近年、消費の面ではバックヤードでの袋詰め、生産の面では一人当たりの面積拡大に伴う省力化から、バラ需要が増加しています。併せて本県産のM規格が5種類と多く市場からはM級の一本化の声が高まっています。さらには、北海道産から本県産への早期切替えを望む実需者が増加している中で、その期待に応えるためにも10月～11月に本県産のロットを確保する必要があります。

### 2 規格統一に向けた取組

これらのことから、バラ需要への対応と年内のロット確保のために、山武・印旛地区園芸連絡協議会を中心に検討を重ねて参りました。その中で出荷

規格の統一を提案し、千葉会根菜類部会を招集するなど、JA・県・園芸協会・市場と連携し協議を行い、平成28年度には秋冬にんじんL級の最低入本数(42本)を3JAで統一しました。

### 3 今後の取組について

秋冬にんじん全体の等階級規格の統一については平成31年度産からの導入を目指し、協議を進めています。8月30日に開催された山武・印旛地区園芸連絡協議会では規格統一に向け、今後の方向性について協議しました。統一後の新たな規格については、各産地の状況や実需者の動向を把握し、慎重に精査していく必要があります。また本県産にんじんの消費宣伝については市場内、量販店を中心に引き続き取り組み、産地切替えの促しや、売り場を確保することで有利販売に繋げていきます。



平成30年度 8月30日(木)開催  
山武・印旛地区園芸連絡協議会 第一回定例会

## 新しい落花生 「<sup>きゅー</sup>Q なっつ」がデビュー！！

千葉県は、国産落花生の約 8 割を生産する日本一の産地です。県では、幅広い世代に落花生を食べていただけるよう新品種「千葉 P114 号」を開発し、その愛称を「<sup>きゅー</sup>Q なっつ」に決定いたしました。

昨年秋に、はがきやインターネットで愛称を募集したところ、6,330 件の応募があり、生産者やコピーライターなどで構成する「落花生新品種愛称選考委員会」で応募作品の中から、千葉県らしさや品種の特長、独自性やインパクトなど、様々な角度から選定しました。「<sup>きゅー</sup>Q なっつ」には、「アルファベットの並び順で『P』の次が『Q』で、これまでのピーナッツを超える味」という意味が込められています。

平成 30 年度の作付面積は 50～60ha、収量は 150 トンの見込みで、10 月中旬から落花生専門店や農産物直売所を中心に、販売を予定しています。

<sup>きゅー</sup>「Q なっつ」の特徴

- ・はっきりした甘み
- ・あっさりとした食べやすい味
- ・気品がある白い莢
- ・煎り莢に向く
- ・収量が多い



<sup>きゅー</sup>「Q なっつ」  
(品種名：「千葉 P 1 1 4 号」)

### 【問合せ先】

千葉県農林水産部流通販売課  
電話 043-223-3085

## 「千葉なし味自慢コンテスト」 (豊水)開催結果

全国一の千葉の梨ナンバーワン決定！

生産振興課園芸振興室

8 月 25 日 (土)～26 日 (日)、習志野市のイオン津田沼店において「千葉なし味自慢コンテスト」を開催しました。今回は県内の 19 団体から「豊水」127 点の出品がありました。

初日の専門家による品質審査に加え、2 日目は「あなたが選ぶ千葉なしナンバーワン！」と題し、一般審査員 50 名が食べ比べて、上位 3 賞を決定しました。

コンテスト期間中は、試食宣伝を行い、「豊水」の美味しさを消費者に知ってもらう機会となりました。

### 【上位 3 賞について】

賞 名	所属組合名	氏 名
農林水産大臣賞	JA いちかわ果樹部会	小川 泰弘
千葉県知事賞	船橋市果樹園芸組合	JA いちかわ船橋梨選果場運営委員会 B 委員長 吉橋 孝夫
農林水産省生産局長賞	JA いちかわ果樹部会	松丸 広樹



専門家による品質審査



上位 3 賞に輝いた出品物の展示

## 「ちばの直売所フェア2018」 開催

収穫の秋、だいこんなどの秋冬野菜やサツマイモ、落花生、旬のサバやサンマなどの県産農林水産物が豊富に出回るこの時期に、例年100店舗以上の農林水産物直売所が参加するフェアを開催します。毎年好評のスタンプラリーに加え、今年度は郷土料理や地域ならではの農林水産物加工品などをPRします。



【期 間】10月20日(土)  
～12月2日(日)

### ◆ スタンプラリー

専用の応募ハガキに、2店舗分の専用スタンプを押印して応募すると、抽選で県産農林水産物や参加直売所の提供賞品、チーバくんグッズなどをプレゼントします。また、当選確率が5倍になる『隠れチーバくん』スタンプもどこかの直売所に設置されています。



専用スタンプ



隠れチーバくんスタンプ

### 【問合せ先】

- ・千葉県農林水産部流通販売課
- ・電話 043-223-2963
- ・ホームページ [ちばの直売所フェア](http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/)で検索!

## 県立農業大学校の学園祭 第39回「社稷祭」を開催!

平成30年11月10日(土)・11(日)の2日間で、「社稷祭」を開催します。

恒例の農産物販売、いも掘り体験(有料)、ミニ動物園、スタンプラリー、卒論パネル紹介、模擬店のほか、農大の野菜や花などが当たる抽選会を行います。

社稷祭には毎回約3,000名の方に御来場いただいております。校内農場で生産した農産物などを買い求めるお客様をはじめ、多くの方々にぎわいます。

学生が丹精込めて作った新鮮な野菜、果物、花、加工品などを是非お買い上げください。

お子様も大人も楽しめます。農業大学校生一同御来場を心よりお待ちしております。

【会 場】千葉県立農業大学校

〒283-0001 東金市家之子1059

【問合せ先】千葉県立農業大学校

電話 0475-52-5121

URL <http://www.pref.chiba.lg.jp/noudai/>



農大産物等抽選会